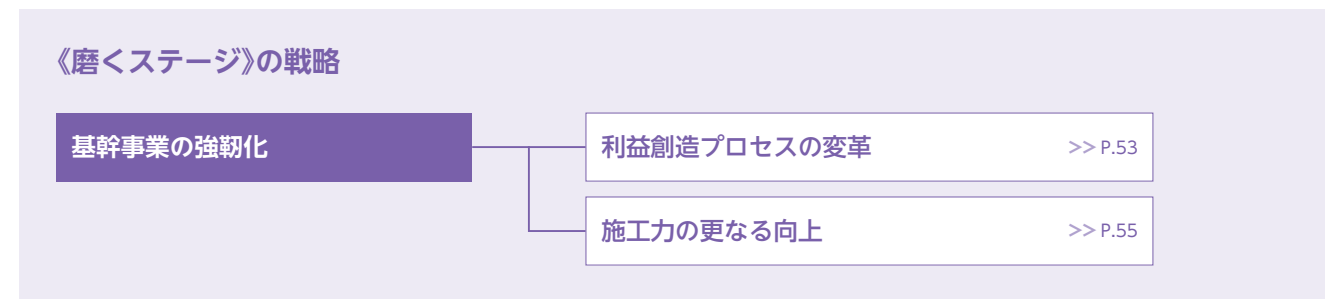


事業戦略 ▶ 基幹事業の強靱化

ダイダングループは、Stage2030におけるPhase2《磨くステージ》中期経営計画のもと、「利益創造プロセスの変革」と「施工力の更なる向上」を掲げ、基幹事業の強靱化を進めてまいります。市場動向の分析に基づく受注戦略の最適化や関係会社と一体となった顧客関係の深化を推進していくことで、収益基盤の一層の向上を図ります。また施工段階においては、プレハブ・ユニット加工オフサイト施設の活用を通じたフロントローディングの推進や、バックオフィスからの現場サポートによる施工プロセスの高度化、そして室内圧の変動を抑える「バリアスマート」シリーズや、高度な気流解析シミュレーション等の設備技術に関する技術革新を通じて、グループ全体の更なる施工力強化に取り組んでまいります。

戦略展開図



利益創造プロセスの変革

受注戦略に基づく利益の安定化

当社では市場を分析し、最適な受注バランスを考慮した受注計画の立案を行っています。昨今はデータセンターや半導体工場などの産業施設工事の設備投資が活発であることを踏まえ、利益確保を念頭に置いた受注活動を展開しています。

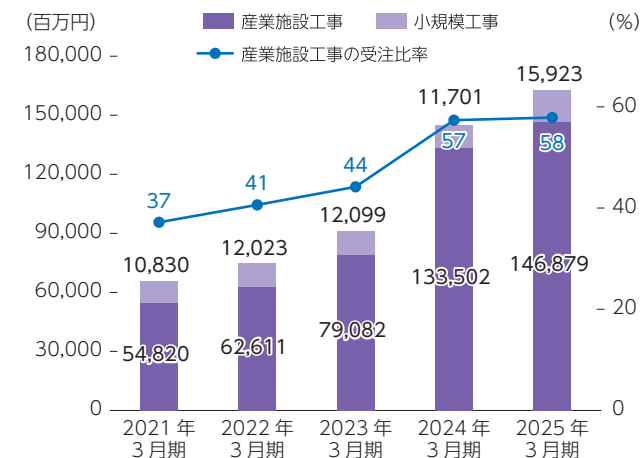
また、建設工事の大型化が顕著であり、当社では全社で流動的に施工体制を構築して対応しています。今後も

大型工事に積極的に取り組む方針であり、特に産業施設の大型工事は技術継承の観点からも重要視しています。

一方建設コストの高騰で、設備投資が新築工事からリニューアル工事へシフトする可能性も考慮し、最適な提案ができるよう社内の組織体制を見直しました。

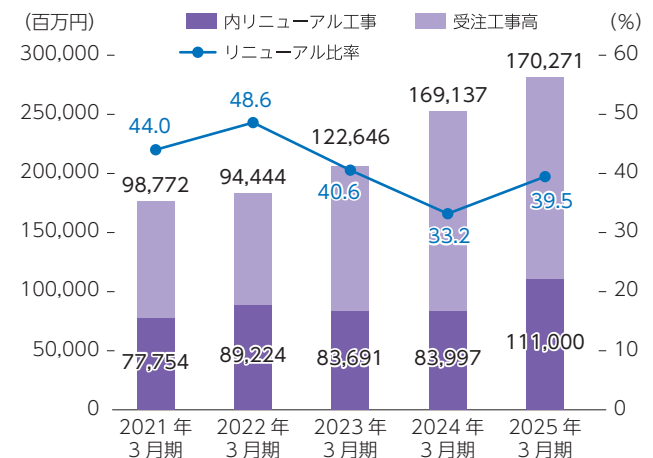
今後も市場を的確に分析し、柔軟かつ効果的な受注戦略を立案し、受注・利益の確保に努めてまいります。

▶ 産業施設工事の連結受注工事高の推移



※工場、研究所、データセンター、物流施設を「産業施設」として区分しています

▶ 連結受注動向（受注高／リニューアル（受注高・比率））



強み

長期ビジョンと中期経営計画
Phase2の概要

Phase2における
戦略とその実践

Phase2における
サステナビリティへの取り組み

データ集

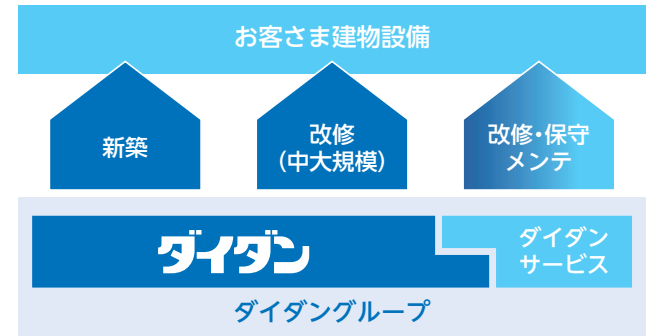
関係会社と一体となった顧客関係性維持

グループ会社の取り組み

ダイダングループの国内子会社は、関東圏、関西圏に展開しており、ダイダングループとして顧客関係性維持を図るとともにさらなる強化を図っています。

ダイダンサービスでは、グループの一員として、施工した建物の改修工事・保守メンテナンスを実施しています。

建物のライフサイクルに応じて適切なタイミングで改修のご提案及び施工を実施することにより、本来の機能の維持及び再生を実現しています。



ダイダンサービス関東株式会社

ダイダンサービス関東では、経験豊富な技術者が中心となり、主にダイダンが施工した案件の改修、修繕、保守メンテナンスを担っています。グループの一員として、ダイダンの技術力、ノウハウを活用しながらグループ全体に貢献したいと考えています。



設 立：1997年12月
社 長：有川 洋一郎
従業員数：19名



ダイダンサービス関西株式会社

ダイダンサービス関西は、大阪本社と連携し関西圏でのダイダン施工案件の保守メンテナンス、小規模工事を担っています。ダイダングループとお客さまとの関係性維持の一端を担うことを第一に事業を展開しています。



設 立：2001年4月
社 長：浜田 浩
従業員数：28名



施工力の更なる向上

プレハブ・ユニット加工オフサイト施設の活用

建設業界では、深刻な人手不足や働き方改革への対応が続く中、近年は大型プロジェクトが増加し、求められる品質も一層高まっています。これにより、施工体制の抜本的な見直しや施工力のさらなる強化が求められています。

当社では、2024年度からの中期経営計画Phase2《磨くステージ》において、『働きやすさ』実現のため、「オフサイトから現場への支援強化」を人材戦略として掲げています。

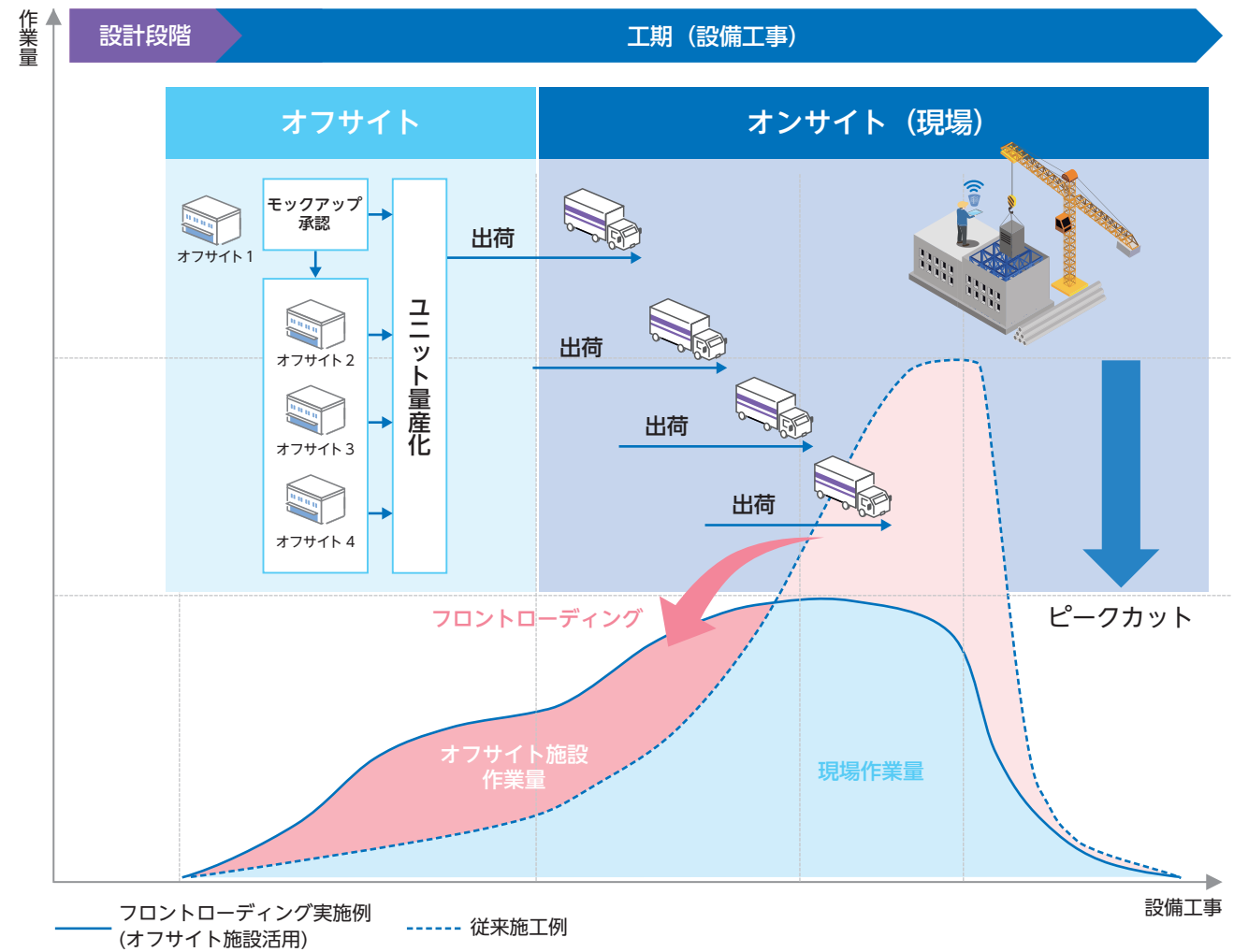
技能工の急速な高齢化と入職者の減少による労働力不足、さらに働き方改革による現場業務の削減に対応すべく、施工現場での省力化と生産性向上を図る、配管加工によるプレハブ化、ユニット化のためのオフサイト施設

の拡充と活用の拡大を進めています。

主要機器や配管・架台ユニット等の早期承認により、複数のオフサイト施設での量産化が可能となるため、現場作業量の大幅な削減、現場工程の平準化にもつながります。

また、オフサイト施設では天候や現場環境に左右されない安定した施工体制を構築できるため、業務効率化や品質向上も図れます。さらに施工負荷の分散と柔軟な作業計画により、協力会社の確保や関係強化にも寄与し、安定したパートナーシップの構築にもつながります。

大型プロジェクトの施工現場では、フロントローディングの一環としてオフサイト施設を活用し、早期に実物大モックアップを製作し、建築主・設計者・施工者間の合意形成を得られるように取り組むケースもあります。



オフサイト施設の活用 ―配管・架台ユニット製作工程―

1 実物大モックアップ製作

2 プレハブ加工・組立て

3 架台・配管ユニット化

4 水圧試験

5 保温

6 出荷前ユニット検査

7 系統表示

8 養生・保管（出荷待ち）

＜オフサイト施設効果＞

顧客満足：モックアップによる要求事項の検査、是正、改善による顧客満足度の向上

品質：ユニット化等、製作物の全数検査による施工品質の確保及び信頼性の向上

工期：現地工事量削減による工程改善、工期厳守

安全：現地作業の大幅削減による事故リスクの軽減

マイスター制度の活用と協力会社とのパートナーシップ強化に向けた取り組み

協力会社との強固なパートナーシップによる確かな品質の提供

● ダイダンマイスター制度

2011年から、現場の安全で効率的な運営及び品質向上を目指し、協力会社の優秀な職長を確保することを目的として、職長の公正な評価と表彰を実施しています。

「マイスター」「優良職長」の認定のほか、登録基幹技術者等の資格取得者に対する費用の補助や「マイスター」「優良職長」への当社現場での勤務に対する表彰金の支給などを行っています。

2025年7月には、資格取得において26社36名、現場貢献において135名の「マイスター」「優良職長」が表彰されました。

また、協力会社の中で、特に秀でており、かつ当社に対する貢献度が高い協力会社を「優良協力会社」として選定し、2024年度は30社を表彰しました。

● マイスターを認定

2024年12月に当社現場で従事された職長の中から25名の優良職長を新たに選出し、最も優れていると評価された8名をマイスターとして認定しました。

マイスター認定者は2025年4月現在で電工17名、配管工20名、ダクト工10名、冷媒配管工4名、保温工4名の計55名となりました。

● パートナーシップ構築宣言

当社は、2025年7月に「パートナーシップ構築宣言」を更新しました。宣言の全文は下記よりご覧ください。

 **パートナーシップ構築宣言**
<https://www.daidan.co.jp/sustainability/pdf/partnership.pdf>





(有) エムエー設備工業
松島 裕樹

VOICE マイスターの声

令和6年度ダイダンマイスターに認定していただき誠にありがとうございました。関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。長年にわたって培ってきた技術と経験が、このような形で評価されたことを大変うれしく光栄に思います。ですが、この仕事は一人ではできません。現場の仲間や先輩方、家族の支えがあったりいただけただけの称号だと思っています。この栄えある称号に甘んじることなく、今後も日々精進していきます。そして、若い世代にもしっかりと技術や現場対応を伝えていけるよう、一層責任を持って仕事に向き合っていく所存です。改めて初心を忘れず丁寧に安全第一を心がけ、後進の育成や現場の安全・品質向上に貢献してまいります。

労働災害撲滅を目指した労働安全衛生の継続的な取り組み

 **安全衛生方針**
<https://www.daidan.co.jp/health-and-safety/>

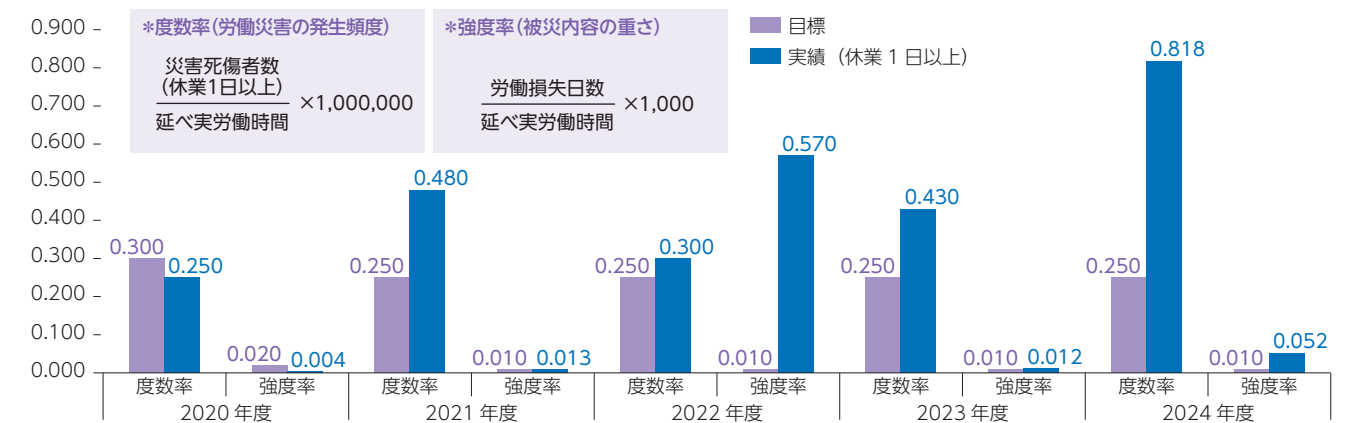
● リスクアセスメントの実施

当社は、すべての現場で着工前にリスクアセスメントを実施して、作業に潜む危険有害要因の特定とその低減措置を決定し、工事の進捗にあわせて毎月見直しを図っています。

● 安全衛生管理体制

当社は、中央安全衛生・健康推進委員会、事業所安全衛生・健康推進委員会をはじめとした安全衛生管理体制を整備しています。事業所安全衛生・健康推進委員会は、事業所ごとに組織され、労使の代表が委員を務めています。全社を統括する中央安全衛生・健康推進委員会は、社長の指揮のもと、技術本部長が議長を務めています。

安全成績



2024年度の評価

目標	重点項目
①全社休業災害件数3件以下	①予防型安全管理の徹底
②時間外労働の上限規制の順守	②諸口工事安全管理の徹底
③健康リスクの低減	③送り出し教育・新規入場者教育の徹底
	④労働時間管理の徹底と過重労働防止策の促進
	⑤健康保持・増進策の実践

2024年度の労働災害発生状況は、被災者数が72人(休業14人、不休58人)となり、前年度と比べ合計で15人増、休業災害についても6人増となりました。事故の型別では、「はさまれ・巻き込まれ」災害は減少しましたが、可搬式足場や仮設足場使用時のルール不順守による「墜落・転落」は2023年度とほぼ同じ件数となりました。発生した災害を分析すると、現場管理者を含む経験年数5年未満の『危険予知不足』による災害に加え、経験年数10年以上のベテランの方による『油断』が原因の災害も多くなりました。これら『危険予知不足』、『ルール不順守』、『油断』の低減を目指して、現場にお

社長パトロール

当社は、2024年10月18日に大阪市此花区の「2025年日本国際博覧会 熱供給業務」作業所において、山中社長が安全衛生品質パトロールを実施し、施工状況の確認を行いました。

今回のパトロールでは、全国労働衛生週間にともない、『労働衛生意識の高揚』、『予防型安全管理の徹底』をテーマに、山中社長自らが現場を巡視し指導を行いました。

山中社長の挨拶では、「工事は概ね終了したとのことだが、これからもまだ作業が続く部分がある。どこでどのような事故が起きるかわからないので気を抜かず残りしっかりとやっていただきたい。これだけの国家プロジェクトなので気を引き締めて、無事故・無災害で仕事を終わらせていただきたい。今日はありがとうございました。」と作業員、従業員に呼びかけました。



現場巡回する山中社長（右から2番目）
 工事件名：2025年日本国際博覧会 熱供給業務
 建物用途：エネルギーセンター
 工期：2023年4月～2026年9月

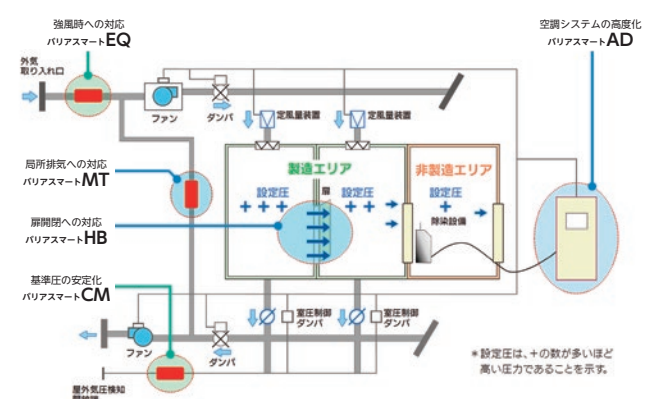
研究開発の活用事例

ダイダンの「イノベーション力」をもとに開発した製品や培われた技術力は、基幹事業に活かし、お客さまに付加価値のある高度な技術として提供しています。

安定したグリーン環境の提供

製薬関連施設やバイオハザード研究施設に代表されるバイオリジカルクリーンルームなどでは、製造品質を保つために室圧を安定化させる必要があります。しかし、扉の開閉や給排気風量の変更、台風や季節風などの外風圧などにより室圧が乱れ、製品の品質が低下するおそれがあります。気密性の高い部屋ほど精度の高い室圧制御

▶ バリアスマートシリーズの概略図



信頼性の高いデータセンターの構築

AIの普及により、データセンターの建設需要はますます高まっています。データセンターでは高いエネルギー消費量が課題となっており、省エネルギー性の高い設計を行います。一方、そのような設計において、さまざまな理由で設計意図と異なりサーバ室や電気室の温度が高くなりすぎることも多く、省エネルギーでありながらも信頼性の高いデータセンターの構築には高度なシミュレーションが求められます。

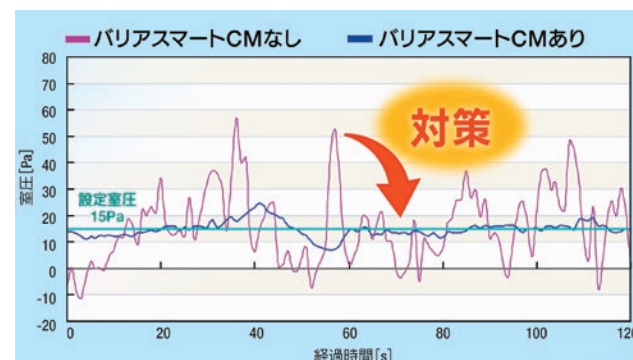
ダイダンは、気流シミュレーションにより、データセンターごとに最も効果的な気流環境の構築を実現しています。気流の速度や温度を可視化することで、お客さまにも視覚的にわかりやすい提案を行います。そして、現場力を通じ、信頼性の高いデータセンターの提供に貢献しています。

また、多くの施工実績から得られたノウハウや知見をもとに、「お客さまの実状に応じた省エネプランニング」「水配管の腐食」「騒音・振動」「最適な光環境」など、お客さまの課題を解決しています。

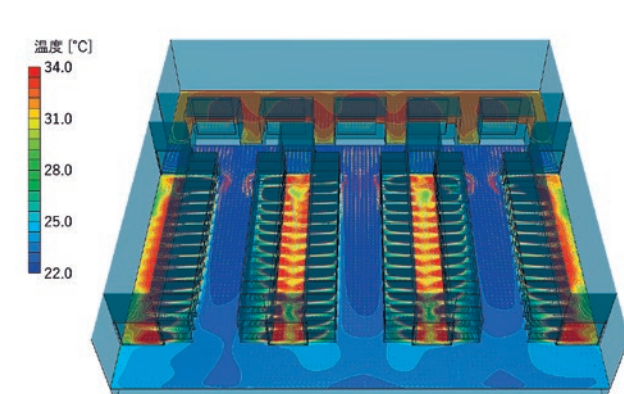
は困難です。

これらの課題に対し、ダイダンは室圧の変動を抑える「バリアスマート®シリーズ」を開発しました。機能価値が異なるラインナップにより、お客さまのさまざまな室圧変動の悩みを解決し、安定したクリーン環境を提供しています。

▶ バリアスマート CM の効果の一例



▶サーバ室内のシミュレーション画像例



現場仮設資機材予約ソリューションの開発

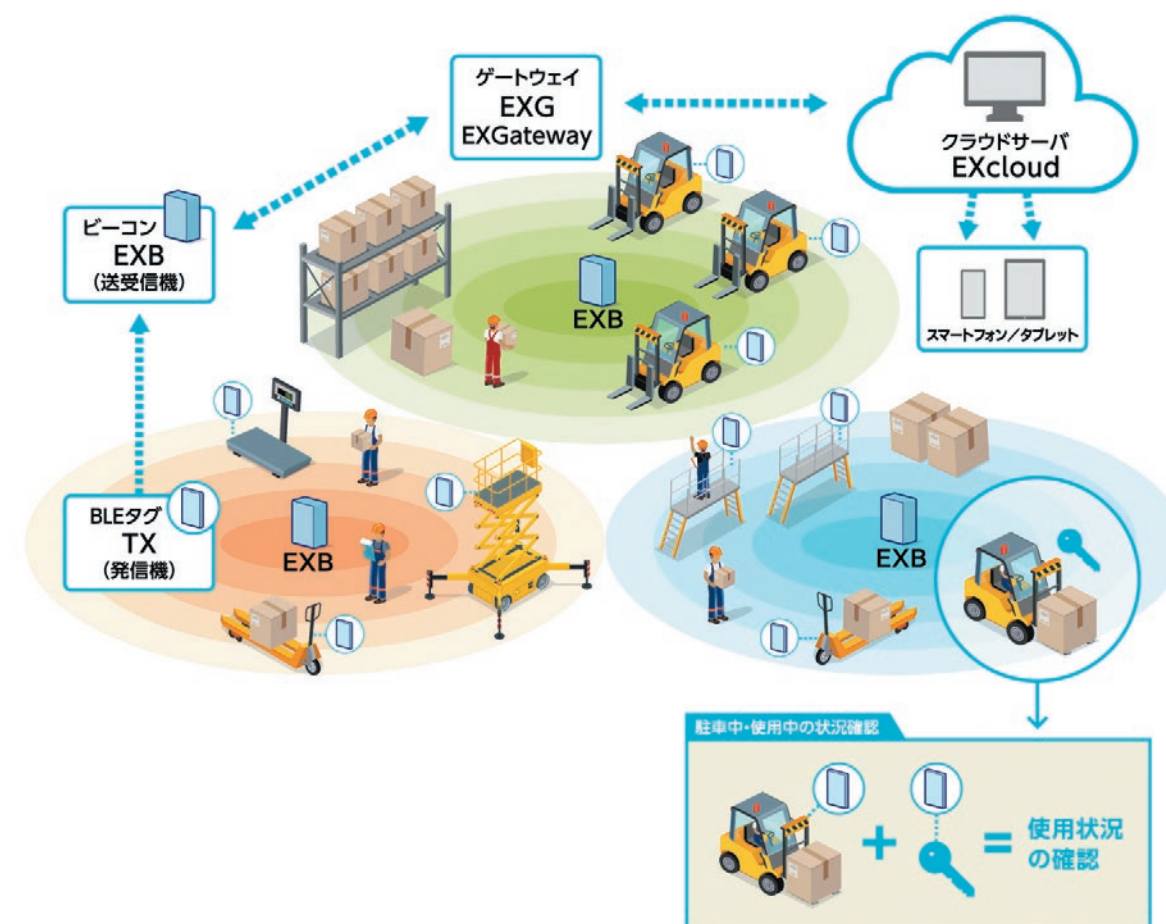
DXによる建設現場の業務効率化・生産性向上の取り組みとして、IoTソリューションを提供する株式会社 WHERE と「モノブッカー」(MonoBooker[®])を開発しました。これは、建設現場における高所作業車などの仮設資機材の位置情報と稼働実態を可視化し、いつでもどこでも予約調整を行うことができるソリューションシステムです。

大型建設現場内では、高所作業車等の仮設資機材がどこにあるかの確認と使用者の把握、さらに予約の調整に多くの時間と手間を要しています。モノブッカーは、仮

設置機材に発信機を装着し、クラウドで位置と稼働情報を管理することで、PCやタブレット、スマホから、どこでも仮設置機材の把握と予約が可能です。

また、現場を離れた管理部門などでも仮設資機材の利用状況を把握でき、稼働率を分析し、返却などのアドバイスをすることも可能です。

2024年度における採用実績は16件となり、うち1件は他社にも活用され、業界の生産性向上に貢献しています。



Technical Reports (テクニカル・レポート) の発行

テクニカル・レポートは、設計・施工の事例を中心に、
当社の技術の蓄積と水平展開による技術社員のレベル
アップを目的として発行しています。

最新号では、「産業施設関連」「医療施設関連」の施工事例、その他特徴ある技術的に優れた竣工物件の紹介をはじめ、技術発表会で上位受賞した取り組みなど、計25件のレポートを掲載しました。

従来の、設計・施工の改善、コストダウンに向けた創意工夫に加え、高度な設備技術を駆使し、将来的な保守管理も考慮した上で設備を提供している事例など、幅広い

い内容で全技術者に情報提供
しています。

社内ポータルからの閲覧方式としているため、ファイルの「目次」や「しおり」から各レポートへのリンク設定や、PCやiPadの画面上で細かなフロー図などを自由に拡大縮小できる機能など、利便性にも考慮しています。

